

平成31年度(令和元年度)「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名	住吉区
学 校 名	大空小学校
学校長名	岩本 由紀

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・ 国語
- ・ 算数

(2) 質問紙調査

- ・ 児童に対する調査
- ・ 学校に対する調査

3 調査の対象

- ・ 国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・ 大空小学校では、第6学年 55名

平成31年度(令和元年度)「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語の平均正答率は、大阪市とはほぼ同じで全国と比べると少し差が開いている。全国を1とすると、昨年度0.86ポイントに比べて今年度は0.89ポイントとほぼ横ばいである。平均無回答率は昨年度の国語A－3.3ポイント、国語B－0.4ポイントに対して今年度は+0.4ポイントと、大阪市、全国よりも若干増える傾向にある。

いっぽう、算数の平均正答率は、全国を1として昨年度0.78から今年度0.98になり、大阪市、全国と比べてほぼ同じところまで力をつけている。また、昨年度の平均無回答率が算数A－0.2ポイント、算数B－3.8ポイントに対して今年度は+0.8ポイントで、大阪市、全国より増えており、わからない問題に対して最後までねばり強くチャレンジする力を伸ばす必要がある。

質問紙において、国語の学習が「好きですか」「将来役に立つと思いますか」の質問に肯定的な回答が全国比でマイナス、算数の学習が「好きですか」「大切だと思いますか」の質問に全国比でプラスになっている。質問紙の結果と国語、算数の平均正答率、平均無回答率の結果は関連している状況となっている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

領域別でみると、国語の「書くこと」「読むこと」については、全国、大阪市とはほぼ同じ平均正答率である。昨年と比べると「書くこと」が伸びており、記述式の問題形式でも解答が伸びている。これは毎日のさよならメッセージを書く習慣が定着し、書く力の維持、向上につながっていると思われる。反対に「聞くこと・話すこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国から10ポイント低くなっている。これについては、子どもが主体となって話し合いながら課題を追求する主体的で対話的な学習を工夫することで、聞く・話すスキルを伸ばしていきたい。さらに、漢字学習については、できた・わかったの達成感を感じさせながら日々自信をつけるように指導を継続することで力をつけていく。

〔算数〕

算数については、各領域ともに全国、大阪市とはほぼ同じ平均正答率である。なかでも「数と計算」が昨年に比べて15ポイント伸びている。この基礎・基本の向上が自信になり、他領域にもつながったと思われる。特に低学年から中学年にかけて、子どもが苦手意識をつくらず自信を持てるように、できた・わかったを実感できる対話的な授業の工夫や、個の力に応じて個別の支援を行い、つまづきを改善するなどの工夫が必要である。

質問紙調査より

- ・児童質問紙において、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことはあるか」「難しいことでも、失敗を 恐れなくて挑戦しているか」などの項目で、あてはまると回答する子どもが大阪市、全国よりも高い。これは、日頃から力をつけようと継続指導している4つの力のうちのチャレンジする力の定着が表れている。
- ・「学校のきまりを守っているか」に対しての肯定的な回答は大阪市、全国に比べてとても多い。さらに、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」や「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」についても肯定的な回答が多く見られ、主体的に学ぼうとする姿勢が見られる。日頃から課題解決に話し合いを取り入れて、4つの力のうちの自分の考えを持つことを意識させている成果が徐々に表れている。
- ・児童一人一人に、本校が取り組んでいるたった一つの約束を守る意識の醸成、また「人を大切にする力」「自分の考えを持つ力」「自分を表現する力」「チャレンジする力」の4つの力を高めようとする意識が育ってきている結果と言える。
- ・しかしながら「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対し、昨年度より10ポイント以上下がっており、児童に成功体験や自己肯定感を高める取り組みが今後必要である。

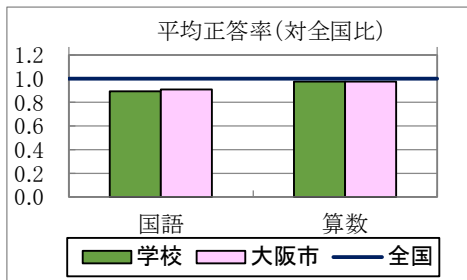
今後の取組(アクションプラン)

- ・国語の知識に関する問題は平均正答率がやや上向きの状況であり、読み書きのスキルアップに向けて読書活動の充実や自分の考えを発表する機会や他の児童や教職員の意見を聞く機会の設定を継続して行う。子どもが主体となって話し合いながら課題を追求する学習の工夫をすることで、聞く・話すスキルを上げていく。
- ・算数に関しては計算タイムの確保や内容の充実を図るとともに、宿題、予習、復習の徹底で基礎基本の充実を図る。また、低学年から「できた、わかった」を実感できる対話的な授業の工夫や、個の力に応じて個別の支援をいかに工夫するか等の授業改善を行うことで、主体的に学ぶ力を育成したい。
- ・どの教科においても児童が自分の考えを持ち、自分を表現できることが重要である。考えを持つために子ども同士は意見を聴き合い、大人の意見も聞き、自分の考えをふくらませる取り組みを行う必要がある。本校で取り組んでいる「つなげる、よりそう、ふくらませる」学習を意識して取り組んでいく。また、引き続き外部講師を招聘した学びの機会を設定するとともに、ICT機器を活用し、基礎・基本の学習の取り組みをすすめ、さらに、子どもが興味関心を高められるように授業の工夫を図っていく。

【 全体の概要 】

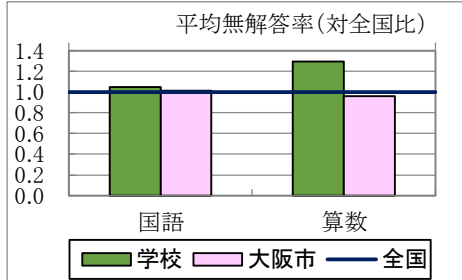
平均正答率（％）

	国語	算数
学校	57	65
大阪市	58	65
全国	63.8	66.6



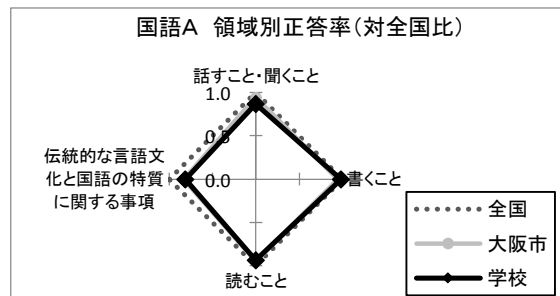
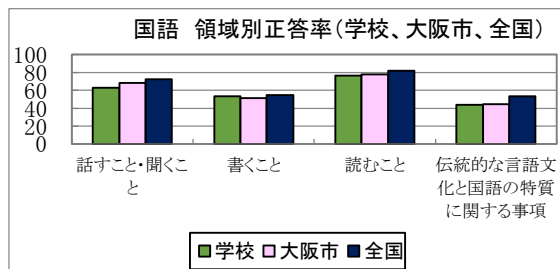
平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	6.5	3.5
大阪市	6.3	2.6
全国	6.2	2.7



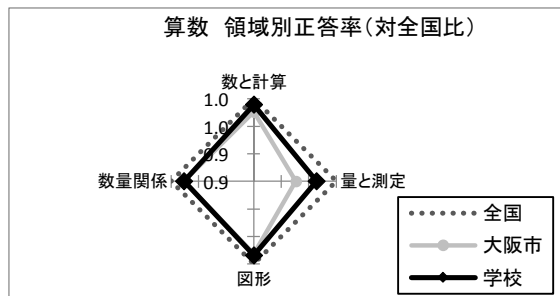
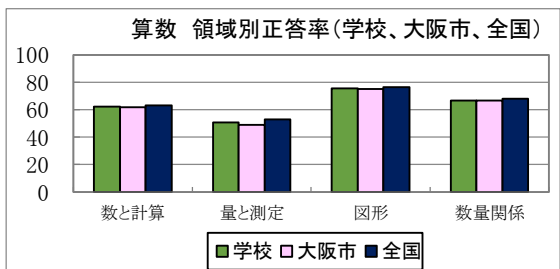
【 国 語 】

		対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	62.7	68.3	72.3
	書くこと	3	53.6	51.5	54.5
	読むこと	3	76.5	77.7	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	43.5	44.6	53.5



【 算 数 】

		対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と計算	7	62.5	61.7	63.2
	量と測定	3	51.0	49.0	52.9
	図形	2	75.5	75.3	76.7
	数量関係	7	66.7	66.7	68.3



児童質問紙より

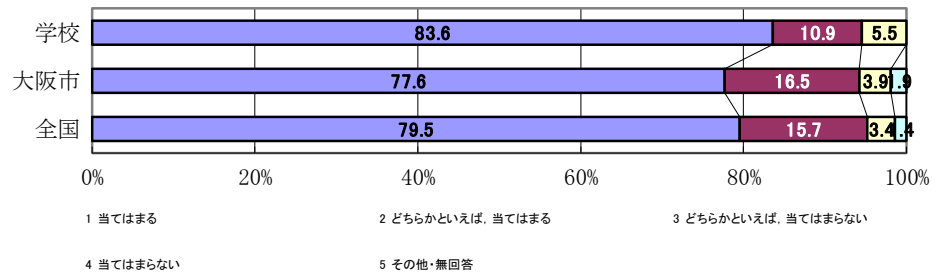
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

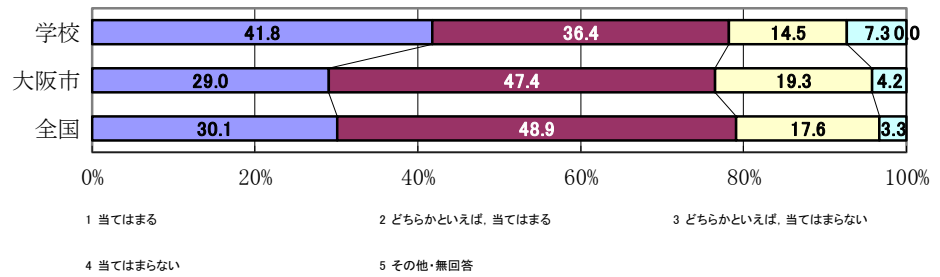
9

ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



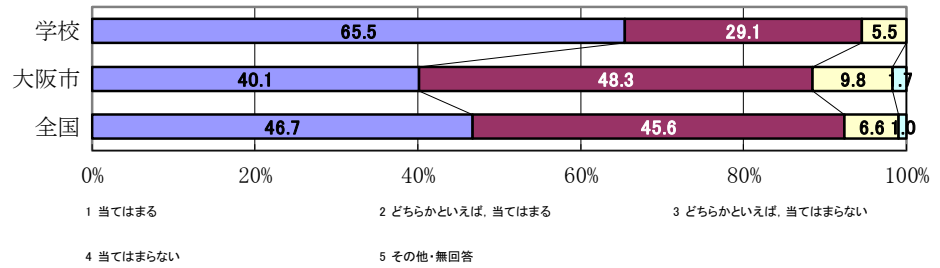
10

難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか



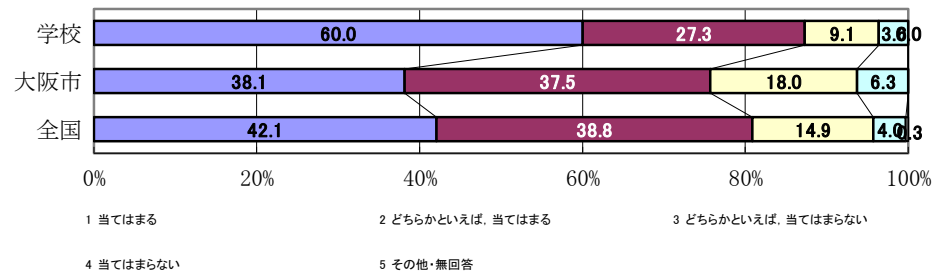
13

学校のきまりを守っていますか



34

道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか



35

5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか

